

ARC所蔵芳年校合摺について

岩切 友里子 (立命館大学衣笠総合研究機構客員協力研究員)

要旨

制作過程の途上の校合摺がまとまって残されたことは珍しいことである。ARC所蔵の芳年の68図の校合摺には、完成した錦絵が未だ確認されていないものも含まれており、芳年の錦絵の制作状況を確認する上で重要なばかりでなく、幕末から明治期の出版状況を知る上でも貴重な資料群である。出版された錦絵との比較対照によって新たに判明した結果を報告しておきたい。

abstract

This paper reports some new findings as a result of my comparative study between published *nishiki-e* (multi-colored woodblock prints) and their *kyōgōzuri* (proof impressions of prints). It is very rare that a considerable number of *kyōgōzuri* are found together today. However, the collection of the Art Research Center, Ritsumeikan University, has sixty-eight proof impressions for *nishiki-e* by Tsukioka Yoshitoshi, several of which are for the prints whose publications have not been confirmed yet. They are precious materials for us to understand not only how Yoshitoshi's *nishiki-e* were produced, but also how the publishing situation in general was from the end of the Edo period to the Meiji.

arcUP5662～5730は、芳年の錦絵の校合摺68図を集めたもので、表紙とされていたUP5662(以下、資料番号のarcを省略)には、「芳年版画」「昭和十六年十二月整理 赤澤竹太郎」「家翁自幼好画 不至就師自画楽 粉本可見好集之 是即蒐集品一部」と墨書されている。

校合摺とは、主板(墨板)を彫師が摺ったもので、絵師は色板を作るために各色ごとに1枚ずつ文字で色名を書き、凸面として残す部分を代赭墨を塗って指定する。この作業を「色ざし」といい、色ざしされた校合摺は裏返しに板に貼りつけられ、紙の上から刀を入れられるので、色板の完成とともに消滅する。UP5670「和漢百物語 雷震」には、「うすにく」と墨書されているが代赭墨による色ざ

しはないので、不要となった分が残されたのであろう。

校合摺はその性質上、一般には入手しがたいものである。本冊をまとめた「赤澤竹太郎」という人物については何も情報がないが、絵を好んで師に就かず絵を描いていたという、この家の「翁」が、芳年の門人など芳年の制作現場に近い周辺の人物を通じて、こうした校合摺を入手したものと推測される。

68図の細目は、後掲の表にまとめたが、改印などから、最も早い時期の図は、文久3年(1863)の「太平記尼ヶ崎合戦中国引返し」(中・左図)(UP5719・5720)で、残りの図の殆どが明治元年までに作られている。大判三枚続「東台山王山

戦争之図」の中・左図(UP5729・5730)の2図だけは例外で、出版された大判三枚続「東台山王山戦争之図」(マレガ文庫MM0616_32参照)の右図にある署名は「応需大蘇芳年」である。芳年が「大蘇」の号を用い始めたのは明治6年であるが、錦絵の出版は彰義隊の実名の表記が認められるようになった明治7年頃と見られる。

制作工程の窺える校合摺がこのようにまとまって残されたことは幸いである。この内の数図は、完成した錦絵が未だ確認されていないものであり、芳年の錦絵の制作状況を確認する上で重要なばかりでなく、幕末から明治期の出版過程を知る上でも貴重な資料群である。本校合摺によって新たに確認された点を中心に、出版錦絵との対照結果を報告しておきたい。

UP5663～5672「和漢百物語」

慶応元年(1865)の「和漢百物語」シリーズについては『月岡芳年一和漢百物語』(町田市立国際版画美術館、1991年)で、詳細な検討がなされている。これまでに確認されている錦絵は、目録1葉と26図であり、「仁木弾正直則」の1図には改印がないが、その他の図には、慶応元年(1865)2月・6月・8月・9月の改印があり、版元は全て大黒屋金之助である。なお1図、版下絵のままで残されている「三間尺」の図も知られるが、この図には版元印はない。

ARC所蔵の校合摺10図の内9図は錦絵が確認されるが、UP5669「大森彦七」(図1)は新出の図様である。大森彦七の画題では、彦七が背負った女が鬼女と化した場面を描く作が多いが、本図では女の被衣を剥ぎ取って宙を睨む彦七だけが描かれているので、飛び去った鬼女の様子は色版によって現そうとしていたのであろう。本図には「丑九改」の改印も彫られているが、目録にも「大森彦七」の題はない(「真柴大領久吉公」も目録にはないが出版されている)。本図でなお注目されるのは、版元である。出版錦絵の内24図の版



図1 UP5669「和漢百物語 大森彦七」

元印は「ツキジ大金」、「真柴大領久吉公」の1図のみが「築地大金梓」で、全て大黒屋金之助であるが、本図には「つきじ」のみの版元印のほか、左下に枠線にのる形で「人形町通具足屋板」ともう一つの版元印が彫られている。具足屋との相版で、さらに出版を続ける予定であったのかもしれない。しかしながら、出版された目録には「二十五葉」とあるので、何らかの事情で以後の出版は打ち切られたのであろう。「彫工多七」と彫師の名があるのも、他の図とは異なる点である。

UP5673～5681「東海道名所図絵」

「東海道名所図絵」は、明治元年(1868)の天皇の東京行幸で東海道を下る朝廷の行列を描いたシリーズであるが、管見の範囲で確認している錦絵は、現在7図のみである。UP5677「鳴海 有松しほり」、UP5679「草津 粟津松原 膳所城」、UP5680「赤坂 なわて」の3図の存在は、本校合摺によって初めて確認したもので、芳年が少なくとも10図を描いていたことが示され、この3図も完成した錦絵が存在する可能性がある。「掛川 秋葉山遠景」は錦絵が確認されているが、この図のみ本校合摺集にはない。このシリーズでは、芳年が景観描写に広重の保永堂版「東海道五

拾三次之内」や豎大判「五十三次名所図会」を参照していることが指摘されているが、錦絵未確認の「鳴海 有松しほり」(図2)もまた、広重の保永堂版「東海道五拾三次之内 鳴海」(図3)を参考にしていることがわかる。

校合摺では、版元・改印が一部未刻であり、UP5678「浜松 ざんごの松」は題名や署名、版元印の周囲に浚い残しのある状態で、まだ彫の完全に済んでいない早い状態で摺られていることがわかる。確認している7図の錦絵は、全て「辰十一改」で、版元は「大橋」である。五十五図が企画されていたとすれば、芳年だけではなく、「末広五十三次」のように他絵師との分担であったことも考えられるが、他絵師の同題の錦絵も知られておらず、揃物としての出版は途中で打ち切られたものと考えてもよいだろう。10図の署名に全て「月岡」姓を用いていることも注目される。



図2 UP5677「東海道名所図会 鳴海 有松しほり」



図3 歌川広重「東海道五拾三次之内 鳴海」 個人蔵

UP5685 ~ 5687 「勇士銘々伝」

この3図には「一」から「三」の序数があり、全て「巳正改」(明治2年正月)の改印も彫られているが、完成した錦絵は未だ確認されていない。

図4の森三左衛門可成は、織田信長の家臣で、大念仏寺で休息していた時に石山勢に攻め込まれ、信長を逃がすために奮戦する。

湯浅吾助(UP5686)は、関ヶ原の戦いで敗れた主君大谷吉継の介錯を務めて、その首を埋めたと伝えられる。

図5の毛受家照は柴田勝家の臣、天正2年(1574)伊勢長島攻めに従軍し、敵に勝家の馬印



図4 UP5685「勇士銘々伝 一 森三左衛門可成」



図5 UP5687「勇士銘々伝 三 毛受家照」

が奪われた時、敵陣に突入して馬印を奪還した。

「勇士銘々伝」には、以上のように織豊時代の武将の名が取り上げられているが、三人とも甲冑を着さない姿で描かれているのは不自然である。明治元～2年には、芳年の「魁題百撰相」という人物の上半身を大きく扱うシリーズが出版されており、人物名は他の時代の武将の名を借りているが、実際には上野戦争に関わった人々を表わしたものであった。「勇士銘々伝」も、やはり当時の旧幕勢と新政府軍の戦いを投影したものと見られる。

芳年の署名には「梓元の応需」とあり、版元は佐野屋喜兵衛である。佐野屋喜兵衛は幕末に多くの錦絵を出版しているが、明治以降の出版活動は殆ど知られておらず、本作は佐野屋喜兵衛の最後期の出版活動を示す資料ともなる。

UP5697～5699「信長記長島合戦」

校合摺にある「信長記長島合戦」の題は、出版された錦絵(図6)では「信長記結城合戦」と訂正され、版元印「玉惣」、中図の人物名標「氏家入道ト全」は削除されている。また、右図(図7)の兵卒の叩く和太鼓は西洋式の小太鼓に、下部の斃れた兵卒の太鼓はラップに彫り直されている(図8)。

「長島合戦」とは16世紀末の伊勢長島での織田信長による一向一揆の鎮圧を指すものであるが、

右図に赤熊をかぶる者がいることなどから、本図も当時の戊辰戦争を投影して作られたものと見られる。

変更された題「結城合戦」は永享12年(1440)



図7 UP5697「信長記長島合戦」右図部分



図8 錦絵「信長記 結城合戦」右図部分



図6 錦絵「信長記 結城合戦」個人蔵

の結城氏と室町幕府との戦いを指すが、変更の理由は何だったのであろうか。

改印の示す「辰五」の前月、1868年4月には、下総国結城藩内部で佐幕派と尊王派との間で紛争が起こり、結城城は官軍に攻められて落城している。本図の題名の変更、ラッパ・小太鼓など近代的装備への図様変更は、この結城藩での事件に結び付けて世間の関心を惹こうとする版元の画策であったと考えることができるだろう。

中図の馬に乗る将士の姿は、嘉永5年(1852)の国芳の大判三枚続「甲越川中島大合戦」(山口屋藤兵衛版)を参照しており、出版された錦絵は色版によって洋風表現を強調したものとなっている。

錦絵「信長記結城合戦」は、西南戦争の錦絵が大量に出版された明治10年に、大倉孫兵衛が板木を流用して、題名を「鹿兒島戦争之図」と改刻し、中央の馬上の人物名を「篠原国幹」、左図の馬上の人物名を「熊本鎮台」と入れて再出版している。



図9 UP5707 「武田勇将血戦図」部分



図10 歌川国芳「近江の国の勇婦於兼」 個人蔵

UP5706～5708「武田勇将血戦図」

本図は、同じ版元、辻岡屋文助出版の慶応2年(1866)12月:「寅十二改」の改印のある大判三枚続「川中嶋大合戦之図」と図がつながり、大判六枚続のワイドな画面を構成する。本校合摺の改印「卯六改」とは、半年ほどの隔りがあるが、「川中嶋大合戦之図」の図様が三枚では完結していないので、芳年はもともと六枚続の画面を制作していたのであろう。

色の摺られていない校合摺の状態で見ると、中図(図9)の諸角豊後守の乗る馬の形に明瞭に看取される点がある。芳年はこの馬を描くにあたって、国芳の天保2～3年(1831～32)頃の横大判「近江の国の勇婦於兼」(図10)の荒馬の形を写している。この作品は現代では、稀観品の類に入るもので、芳年が生まれる天保10年以前に出版されたこの錦絵を彼はどのように写しえたもの

であろうか。国芳の馬に関しては、勝盛典子「大浪から国芳へ—美術に見る蘭書受容のかたち」(神戸市立博物館『研究紀要』16号、2000年)においてヨーロッパで出版された『イソップ物語』の馬とライオンの図との関連が指摘されており、芳年が直接、国芳の錦絵を見たのか、或いは何か写しがあったものかどうか、また、国芳がソースとした図との関連など、解明の俟たれる興味深い問題を含んでいる。

UP5712～5714 題名未刻 (渡辺綱、禁札を賜る)

源頼光の御前に四天王と平井保昌が集まり、渡辺綱が禁札を手にして、羅生門の鬼退治に出立する直前の場面が描かれる(図11)。左図、座敷の外では、従者が鎧兜の準備をしており、

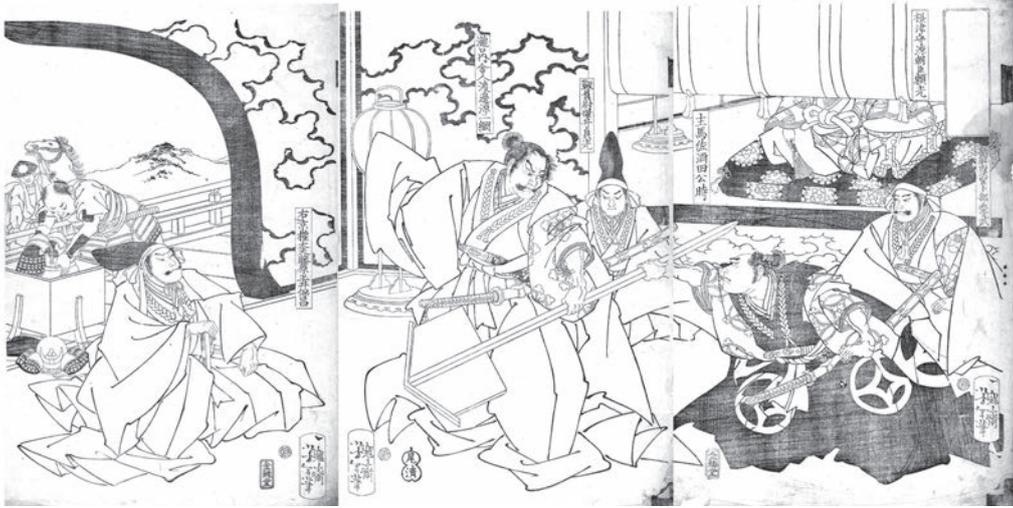


図11 UP5712～5714 題名未刻（渡辺綱、禁札を賜る）

表では、もう一人の従者が綱の馬の手綱をとって控えている。謡曲「羅生門」や、頼光たちが大江山の酒吞童子を退治する頼光山入りの前段に扱われるくんだり、古浄瑠璃「しゅ天どうじ」（舞鶴市教育委員会糸井文庫mai01b03）、享保6年（1721）の奥村政信画「頼光山入」（舞鶴市教育委員会糸井文庫mai01b07）、寛保4年（1744）の西川祐信『絵本武者考鑑』（図12）などに見られるが、管見の範囲では錦絵の作例を見ていない。

本図の改印「辰二」の前月、慶応4年（1868）1月には、戊辰戦争の端緒となった鳥羽・伏見の戦いが起きている。或いは、本図は何らかの時局的寓意を含んでの制作であった可能性もあるが、完成した錦絵は未確認である。右・左図には「金鱗堂」、中図には「尾清」の版元印があるが、同じ版元で、麴町6丁目の金鱗堂・尾張屋清七である。



図12 西川祐信『絵本武者考鑑』 個人蔵

金鱗堂版の芳年の錦絵は少なく、筆者は2作を知るのみである。一つは、本図と同じ「辰二改」の改印のある大判三枚続「楠公記吉野合戦」（早稲田大学演劇博物館：010-0048・0049・0050）で、炎上する吉野城の大塔宮護良親王を描いたものであるが、この図も一般的な武者絵の画題とはいえ、時事的な背景を感じさせる。もう1作は、大判二枚続の時局諷刺の戯画「泰平楽八醉人」（江戸東京博物館、ボストン美術館蔵）で、これも同年の「辰閏改」であるが、金鱗堂の芳年の錦絵の出版は、その後途絶えている。

UP5722「英雄百面相 堀本儀太夫高利」

「堀本儀太夫高利」の名は、太閤記の英雄を描いた国芳の「太平記英勇伝」シリーズの同人物名にならったもので、実際は加藤清正の臣、森本儀太夫のことである。「英雄百面相」の題を持つ錦絵は未確認で、校合摺も本図1図（図13）だけなので、どのような揃物として企画されたのか判然としない。太閤記関連の勇士を集めたものであったのかもしれないが、画中の文が文禄の役での晋州城攻めをとり上げているところからは、当時の尊王攘夷の風潮を反映している可能性も考えられるだろう。

改印は「丑十二改」（慶応元年12月）で、芳年



図13 UP5722「英雄百面相 堀本儀大夫高利」

の半身像の武者絵として最も早い作となり、瞳に光の反射を表わす白点を入れている点も同様式の明治元年～2年の「魁題百撰相」に先行するものとして注目される。

UP5725 「川中島三討死 山本道鬼討死之図」 (大判三枚続の左図)

校合摺(図14)は、慶応3年の大判三枚続(図15)の左図のみであるが、校合摺ではより墨線をはっきりと見てとることができ、芳年が山容の描写に、谷文晁の『日本名山図会』(文化元年『名山図譜』の改題)の「御嶽」(図16)を写していることが明確になる。



図14 UP5725
「川中島三討死 山本道鬼討死之図」右図

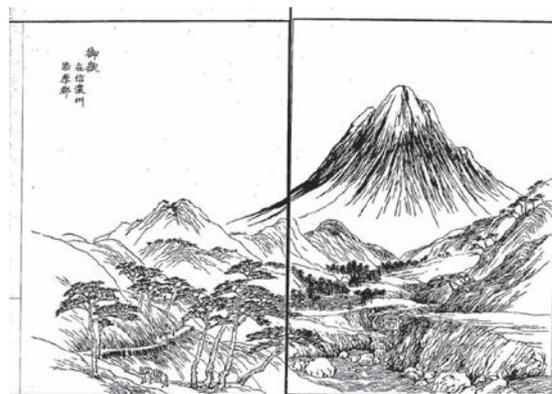


図16 谷文晁『日本名山図会』御嶽 個人蔵



図15 錦絵「川中島三討死 山本道鬼討死之図」 個人蔵

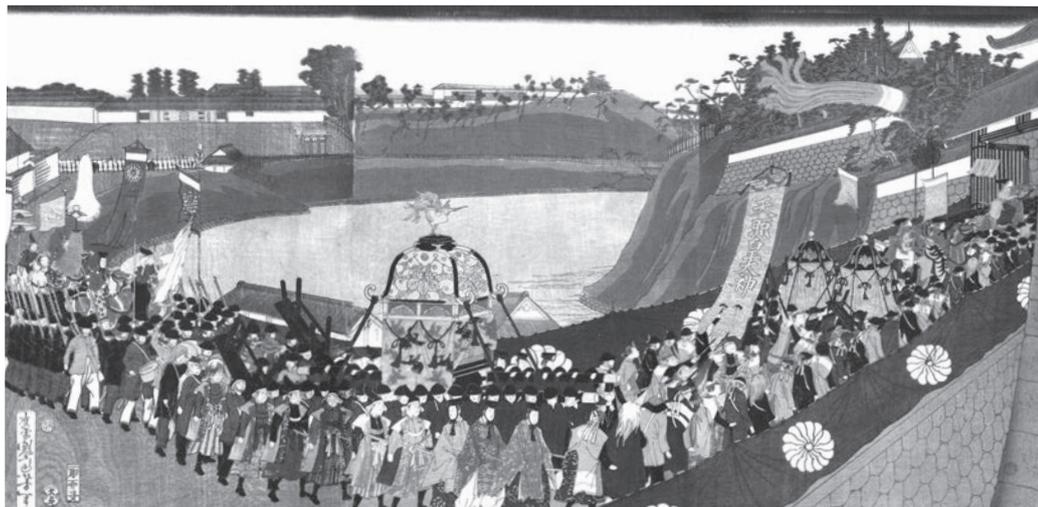


図17 錦絵(明治天皇御東幸千代田城御入城之図) 個人蔵

UP5727 (明治天皇御東幸千代田城御入城之図) 右図

明治元年9月20日に京都の御所を発った天皇は10月13日に江戸城に入城した。出版された大判三枚続の錦絵(図17)には題名がない。このような無題の作品は、浮世絵データベースでは検索が難しい。本校合摺(図18)のように、大判三枚続の1図だけが残され、絵師名も版元名も画中没有の場合は、検索はさらに困難である。画像検索の必要が求められるケースである。

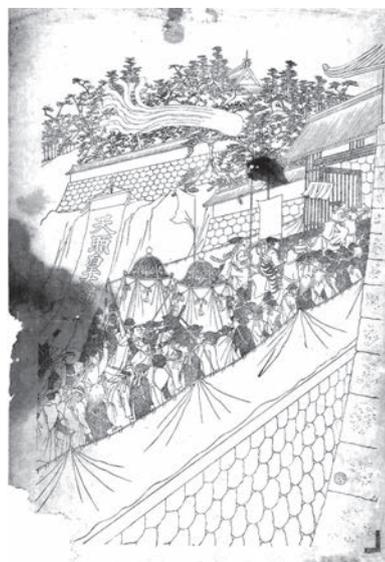


図18 UP5727 (明治天皇御東幸千代田城御入城之図) 右図

UP5728 「浮世たとえ」

「とうだい元くらし」「らくあれはくあり」「もつたがやまひ」「へびのなまごろし」「十目見るところ」と種々のことわざを扱っている(図19)。本図の錦絵は東京大学史料編纂所に所蔵される。本図と同じ題名を持つ図は他に2図(明治大学博物館・東京大学史料編纂所蔵)知られるが、全て絵師名、版元名、改印がない。ことわざと絵の関連がわかりかねるものもあり、時局の諷刺画と見られる。

絵師を特定することはできないが、本図が芳年の校合摺とともに残されていたことから、芳年、あるいは芳年門下の筆である可能性を考えることはできるだろう。



図19 UP5728 「浮世たとえ」

〔附記〕

芳年の作品目録を、拙著『芳年』（平凡社・2014年）に掲載したが、ARC所蔵の校合摺によって新たに確認された図を追記すべきと考える。

また、目録中、明治14年の作品として挙げた「本朝忠孝鑑」の記載に誤りがあった。疎漏を謝し、紙面を借りて訂正を報告しておきたい。「本朝忠孝鑑」として掲載されているデータと細目は、正しくは「稚立功名鑑」のものである。「本朝忠孝鑑」の正しいデータと細目は、以下の通りである。

〔本朝忠孝鑑〕

中判二丁掛、児玉又七、応需芳年画・大蘇印、1881/00、彫工伊八

- 1 木村長門守重成／秋色・父甚兵エ
- 2 大石内蔵之助良雄／養老の滝・孝子太郎作
- 3 毛受莊助／孝女於梅・於梅が父・盗賊
- 4 武林唯七／孝女於蓮
- 5 志賀団七・信夫・宮城野／竹童丸
- 6 俊寛僧都・小姓有王丸／遊女勝山
- 7 片桐市正且元／孝子政吉
- 8 佐藤四郎忠信／楠河内判官正成・楠多門丸正行
- 9 児島三郎高德／信濃の国麻績村の孝子与作
- 10 加藤肥後守清正／孝子佐五郎

〔追補〕

〔続絵〕の部・明治元年

◇「復讐義士銘々伝 五」 森半左衛門宗教・倉橋
伝助武幸・間喜兵衛光延
大判三枚続 錦盛堂 魁斎芳年筆・芳桐印
1868/07

◇「復讐義士銘々伝 二十」 間重次郎光興・木
羅上野介義英・武林唯七隆重
大判三枚続 錦盛堂 魁斎芳年筆・芳桐印
1868/07

〔その他〕の部・元治元年

〔浮世狂画〕 大判 辻文 1864/05

- 1 金玉のたわむれ 魁斎芳年戯筆
- 2 龍宮のたわむれ 玉桜芳年戯筆・魁斎印
- 3 名画のたわむれ 芳年戯筆・魁斎印

〔役者絵〕の部・文久2年

◇「麻疹全快御目得口上」

（市村羽左衛門13・河原崎権十郎） 大判（1図のみ確認） 1862/07 亀

ARC所蔵芳年校合摺

arcUP	資料名	板元	署名	改印	年代	備考
5662	(芳年校合摺綴 表紙) 芳年版画				昭和16年(1941)	
5663	和漢百物語 清姫	ツキジ大金	一魁斎芳年画	丑九改	慶応元年(1865)	
5664	和漢百物語 楠多門丸正行	ツキジ大金	一魁斎芳年画	丑二改	慶応元年(1865)	
5665	和漢百物語 主馬介卜部季武	ツキジ大金	一魁斎芳年画	丑二改	慶応元年(1865)	
5666	和漢百物語 白藤源太	ツキジ大金	一魁斎芳年画	丑二改	慶応元年(1865)	
5667	和漢百物語 左馬之助光年	ツキジ大金	一魁斎芳年画	丑二改	慶応元年(1865)	
5668	和漢百物語 下部筆助	ツキジ大金	芳年画	丑九改	慶応元年(1865)	
5669	和漢百物語 大森彦七	つきじ/具足屋板	一魁斎芳年画	丑九改	慶応元年(1865)	錦絵未確認
5670	和漢百物語 雷震	ツキジ大金	一魁斎芳年画	丑六改	慶応元年(1865)	
5671	和漢百物語 登喜大四郎	なし	一魁斎芳年画	なし	慶応元年(1865)	錦絵は、改印と版元印は紅の色版
5672	和漢百物語 華陽夫人	ツキジ大金	一魁斎芳年画	丑二改	慶応元年(1865)	
5673	東海道名所図絵 関 参宮道追分	なし	月岡芳年筆	なし	明治元年(1868)	錦絵は辰十一改
5674	東海道名所図絵 神奈川 横浜遠景	大橋	月岡芳年写	未刻		錦絵は辰十一改
5675	東海道名所図絵 江尻 田子の浦 三保之松原	未刻	月岡芳年筆	未刻		錦絵は辰十一改
5676	東海道名所図絵 府中 式丁まち	大橋	月岡芳年写	未刻		錦絵は辰十一改
5677	東海道名所図絵 鳴海 有松しほり	未刻	月岡芳年筆	未刻		錦絵未確認
5678	東海道名所図絵 浜松 ざんざの松	大橋	月岡芳年写	辰十一改	明治元年(1868)	錦絵は辰十一改
5679	東海道名所図絵 草津 粟津松原 膳所城	未刻	月岡芳年筆	未刻		錦絵未確認
5680	東海道名所図絵 赤坂 なわて	未刻	月岡芳年写	未刻		錦絵未確認
5681	東海道名所図絵 鞠子 名物とろ汁	未刻	月岡芳年筆	未刻		錦絵は辰十一改
5682	和漢豪気揃 (雨乞小町・竜王太郎)	大貞	応好芳年筆	辰四改	明治元年(1868)	
5683	和漢豪気揃 (髑髏の怪・金太郎)	大貞	一魁芳年画/ 芳年筆	辰四改	明治元年(1868)	
5684	和漢豪気揃 (平惟茂・鬼若丸)	大貞	応好芳年筆	辰四改	明治元年(1868)	
5685	勇士銘々伝 一 森三左エ門可成	佐野喜	粹元応需一魁斎芳年画	已正改	明治2年(1869)	錦絵未確認
5686	勇士銘々伝 二 湯浅吾助	佐野喜	粹元応需一魁斎芳年画	已正改	明治2年(1869)	錦絵未確認
5687	勇士銘々伝 三 毛受莊助家照	佐野喜	粹元応需一魁斎芳年画	已正改	明治2年(1869)	錦絵未確認
5688	三傑桃園結義図 (右図)	海老林	魁斎芳年筆	寅五改	慶応2年(1866)	
5689	三傑桃園結義図 (中図)	海老林	魁斎芳年筆	寅五改	慶応2年(1866)	
5690	三傑桃園結義図 (左図)	海老林	魁斎芳年筆	寅五改	慶応2年(1866)	
5691	武勇雪月花之内 五条の月(右図)	木屋	一魁斎芳年筆	卯二改	慶応3年(1867)	
5692	武勇雪月花之内 五条の月(中図)	木屋	一魁斎芳年筆	卯二改	慶応3年(1867)	
5693	武勇雪月花之内 五条の月(左図)	木屋	一魁斎芳年筆	卯二改	慶応3年(1867)	
5694	英雄五行之内 火 佐々成政九州難戦之図 (右図)	木屋	一魁斎芳年筆	卯九改	慶応3年(1867)	
5695	英雄五行之内 火 佐々成政九州難戦之図 (中図)	木屋	一魁斎芳年筆	卯九改	慶応3年(1867)	
5696	英雄五行之内 火 佐々成政九州難戦之図 (左図)	未刻	一魁斎芳年筆	卯九改	慶応3年(1867)	

5697	信長記長島合戦(右図)	玉惣	一魁斎芳年筆	辰五改	明治元年(1868)	
5698	信長記長島合戦(中図)	玉惣	一魁斎芳年筆	辰五改	明治元年(1868)	
5699	信長記長島合戦(左図)	玉惣	一魁斎芳年筆	辰五改	明治元年(1868)	
5700	武田勇士血戦之図(右図)	若甚板	一魁斎芳年筆	辰閏改	明治元年(1868)	
5701	武田勇士血戦之図(中図)	若甚板	一魁斎芳年筆	辰閏改	明治元年(1868)	
5702	武田勇士血戦之図(左図)	若甚板	一魁斎芳年筆	辰閏改	明治元年(1868)	
5703	豊臣勲功記 高松城水攻之図(右図)	しばやまじん	一魁斎芳年筆	卯六改	慶応3年(1867)	
5704	豊臣勲功記 高松城水攻之図(中図)	しばやまじん	一魁斎芳年筆	卯六改	慶応3年(1867)	
5705	豊臣勲功記 高松城水攻之図(左図)	しばやまじん	一魁斎芳年筆	卯六改	慶応3年(1867)	
5706	武田勇将血戦図(右図)	辻文板	一魁斎芳年筆	卯六改	慶応3年(1867)	川中嶋大合戦之図と六枚続になる
5707	武田勇将血戦図(中図)	辻文板	一魁斎芳年筆	卯六改	慶応3年(1867)	
5708	武田勇将血戦図(左図)	辻文板	一魁斎芳年筆	卯六改	慶応3年(1867)	
5709	太平記阿根川大合戦(右図)	なし	一魁斎芳年筆	卯七改	慶応3年(1867)	右図に未刻の枠が残る
5710	太平記阿根川大合戦(中図)	増田屋	一魁斎芳年筆	卯七改	慶応3年(1867)	
5711	太平記阿根川大合戦(左図)	なし	一魁斎芳年筆	なし		
5712	題名未刻(頼光の御前で禁札を賜る渡辺綱)(右図)「撰津守源朝臣頼光」「主馬佐酒田公時」「勘解由次官卜部季武」	金鱗堂	一魁斎芳年筆	辰二改	明治元年(1868)	錦絵未確認
5713	(頼光の御前で禁札を賜る渡辺綱)(中図)「瀧口内舎人渡辺源二綱」「鞍負尉碓井貞光」	尾清	一魁斎芳年筆	辰二改	明治元年(1868)	錦絵未確認
5714	(頼光の御前で禁札を賜る渡辺綱)(左図)「右京権大夫藤原平井保昌」	金鱗堂	魁斎芳年筆	辰二改	明治元年(1868)	錦絵未確認
5715	武勇雪月花之内 吉野の雪(右図)	木屋	一魁斎芳年筆	卯二改	慶応3年(1867)	雪塊のむだぼりあり
5716	武勇雪月花之内 吉野の雪(中図)	木屋	一魁斎芳年筆	卯二改	慶応3年(1867)	
5717	源平逆櫓論(右図)	辻文板	一魁斎芳年筆	辰四改	明治元年(1868)	
5718	源平逆櫓論(左図)	辻文板	一魁斎芳年筆	辰四改	明治元年(1868)	
5719	太平記尼ヶ崎合戦中国引返し之図(中図)	両国 加々や	一魁斎芳年画	亥十一改	文久3年(1863)	
5720	太平記尼ヶ崎合戦中国引返し之図(左図)	両国 加々や	一魁斎芳年画	亥十一改	文久3年(1863)	
5721	末広五十三次 桑名	馬喰四 木宗梓	芳年筆	閏五改	慶応元年(1865)	
5722	英雄百面相 堀本儀太夫高利	伊勢兼	魁斎芳年筆	丑十二改	慶応元年(1865)	錦絵未確認
5723	太功記之内 高松水攻(右図)	錦盛堂	一魁斎芳年筆	辰七改	明治元年(1868)	
5724	豊臣勲功記 兵曾加部堀之陣 江夜討ノ図(右図)	しばやまじん	一魁斎芳年筆	卯正改	慶応3年(1867)	
5725	川中嶋三討死 山本道鬼討死之図(左図)	増田屋	一魁斎芳年筆	卯十一改	慶応3年(1867)	
5726	前太平記相馬内裏之図(中図)	伊勢兼	魁斎芳年画	辰二改	明治元年(1868)	
5727	(明治天皇 御東幸千代田城御入城之図)(右図)	なし	なし	辰八改	明治元年(1868)	
5728	浮世たとえ	なし	なし	なし		錦絵も無署名
5729	東台山玉山戦争之図(左図)	なし	なし	なし		人物名標未刻
5730	東台山玉山戦争之図(中図)	未刻	なし	なし		錦絵は六華園蔵板・応需大蘇芳年